

# 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所名	ヘスティア華城グループホーム		
所在地	防府市大字伊佐江1598番地		
電話番号	0835-20-0322	事業所番号	3570600704
法人名	社会福祉法人 華世会		

訪問調査日	平成 21 年 7 月 17 日	評価確定日	平成 21 年 9 月 15 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

## 【情報提供票より】

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 6 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	14 人	常勤 3 人 非常勤 11 人 (常勤換算 8.7 人)	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1 階建ての	~ 1 階部分

### (3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 21,280 円	敷金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	無
食費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
その他の費用	光熱水費 1日200円	日用品費	1日200円	

### (4) 利用者の概要 (7月17日現在)

利用者数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
	要介護 1		要介護 4		
	要介護 2	7	要介護 5		
	要介護 3	2	要支援 2		
年齢	平均 87.3 歳	最低	76 歳	最高	95 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療 機関名	医科 医療法人社団水生会 柴田病院 歯科 なごみ歯科クリニック
-------------	------------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

### (優れている点)

職員14名を確保され、6交代の勤務シフトで、日中は3~5名の職員配置がされています。法人内研修、外部研修等学ぶ機会を設け、かつ全職員が共有出来るようにされています。職員間のチームワークもよく、異動も少なく、利用者と職員の馴染みの関係を保つことを重視した対応がなされ、優しく、ゆったりと、一人ひとりのペースを大事にした支援がされています。外では車椅子の必要な方も施設内では手引き歩行を行ない、身体機能の低下を防ぐ取り組みをされています。

### (特徴的な取組等)

月2回地域のボランティア4~5名に来訪してもらい、「お化粧を行なうおしゃれの日」、「フラワーアレンジメントの日」を設け職員と共に利用者一人ひとりに付き添い、楽しい時間を過ごす工夫がなされています。介護計画実施記録表を作成し、長期目標、短期目標を記入し、利用者一人ひとりの具体的な対応項目を定め、日々チェックを行ない、定期的な見なおしをされています。また、業務日誌等記録類に全員の印欄を設け、職員間の情報の共有を徹底し、サービスの向上を図っておられます。

## 【重点項目への取組状況】

### (前回の評価結果に対するその後の取組状況)

運営推進会議のメンバーの拡大の提案を受け、地域ボランティアの会長、副会長、地域包括支援センターの職員が参加されるように改善されました。

### (今回の自己評価の取組状況)

ミーティングで管理者が評価の意義や評価項目について説明し、自己評価書を全職員に配布し、記入されたものを管理者がまとめられました。まとめたものを再度職員に確認してもらい作成されています。

### (運営推進会議の取組状況)

利用者、家族、地域住民代表(第三者委員)、ボランティアの会の代表者、市職員、地域包括支援センター職員、管理者のメンバーで2ヶ月に1回、開催されています。利用者の状況や行事報告を行ない、意見交換をされています。

### (家族との連携状況)

ほとんどの家族に利用料を施設に持参してもらい、その時や面会時また電話等で状況を報告したり、家族の意見や要望を聞き、介護計画に組み込まれるなどされています。日々の活動を写真に撮り、掲示して様子を見てもらったり、写真を家族へプレゼントされています。

### (地域との連携状況)

月2回のお化粧行なうおしゃれの日とフラワーアレンジメントの日地域ボランティア4~5名の協力を得て行ない、地域の人との交流を図られています。法人内のデイサービスに保育園児の訪問やケアハウスへの訪問があり、利用者との交流が行なわれています。

## 評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期 待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1 (1)	<p><b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>	<p>法人の理念に加えて地域密着型サービスとしての理念を職員の意見を聞き、まとめ新たに作り上げている。「ご家族への支援と地域との関わり」を掲げている。</p>	
2 (2)	<p><b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念を事務所内に掲示し、カンファレンスで理念の確認などしている。</p>	
<p>2. 地域との支えあい</p>			
3 (7)	<p><b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>月2回の「お化粧品を行なうおしゃれの日」と「フラワーアレンジメントの日」に地域のボランティア4～5名の協力を得て行ない、地域の人との交流の機会となっている。法人内のデイサービスやケアハウスに保育園児の訪問のある時に参加し交流している。地域とのつきあいは少ない。</p>	<p>・地域への広報や交流の検討</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
4 (9)	<p><b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	<p>ミーティングで管理者が評価の意義や評価項目について説明を行ない、自己評価書を全職員に配布し記入してもらい、管理者がまとめて作成している。前回の評価結果から運営推進会議のメンバー拡大を行なっている。</p>	
5 (10)	<p><b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行ない、そこでの意見をサービスに活かしている。</p>	<p>利用者、家族、地域住民の代表者(第三者委員)、ボランティアの会の代表者、市職員、地域包括支援センター職員、管理者のメンバーで2ヶ月に1回開催している。利用者の状況や行事報告を行ない、意見交換をしている。</p>	
6 (11)	<p><b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	<p>状況報告や相談等、市担当者との連携をしながらサービスの質の向上に取り組んでいる。市から認知症啓発事業の委託を受け、地域住民への講座を開催している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	利用料の振り込み口座を重要事項説明書に載せているが、ほとんどの家族に利用料を持参してもらい、その時や面会時、電話等で状況を報告したり、金銭管理、職員の異動等の報告をしている。利用者の暮らしの写真を毎月掲示し、3～4ヶ月まとめて写真を家族へプレゼントしたりしている。	
8 (18)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	苦情相談窓口、担当者、外部機関、第三者委員を明示し、苦情処理手続きを明確に定めている。第三者委員が運営推進会議に参加しており、家族の意見や相談を聞いている。玄関に意見箱を設置している。	
9 (20)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤3人、非常勤11人で6交代の勤務シフトにして、日中は3～5人の職員で利用者一人ひとりが生き生き生活できる支援体制に取り組んでいる。職員の家庭の事情や急な休みにも調整して対応している。	
10 (21)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	職員の異動は最小限にとどめており、永年勤めている職員が多い。異動や新規採用時には利用者の状況が把握できるまでは、夜勤に組み込まない等、利用者への影響を配慮している。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修へ参加できる機会を勤務の一環として提供している。月2回あるカンファレンスの時間に研修報告を行ったり、内部研修を行ったりしている。	
12 (24)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外部研修の場で他の事業所の職員と情報交換や交流を行なっている。	・同業者と交流する機会の検討

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p><b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>入居前に本人や家族への面接や自宅訪問を行ない、施設の見学や一日体験利用をしてもらい、馴染めるように工夫している。すぐに利用になった場合は、家族や関係者に来てもらうなどして、利用者が不安のないように配慮している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p><b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>日常生活の中で食事の準備や食事、後片付け、洗濯物たたみ、掃除等一緒に行なう中で利用者の手際良さを教わったり、話し合ったりする中で共に支え合う関係を築いている。職員は必ず「ありがとう」の感謝の声かけを行なっている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p><b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の関わりの中で、利用者の言葉や行動から思いや意向を把握し、個人記録に記入している。職員全員が共通理解するように記録を読むと印を押すようにしている。カンファレンス等で検討を行ない、希望に添うように努めている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p><b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>本人の思いや意向、面会時に聞いている家族の意見、受診時の医師の意見を参考にして、カンファレンスで話し合っている。日常生活のレベル低下防止、楽しい生活の向上等意見やアイデアを生かした介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p><b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じた見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>一人ひとりの介護計画実施記録に長期目標、短期目標を掲げ、具体的な対応項目を定め日々出来ているかのチェックを入れ、評価を行ない、3ヶ月毎にケアプランの見なおしをしている。利用者の状態に変化が生じたときは、必要に応じて見直している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p><b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>要望に応じて美容院の付き添いや送迎、通院の付き添い、ドライブ、買物、散歩等柔軟な支援をしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	<b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居前からのかかりつけ医の受診支援を行ない、現状把握や状態の変化の把握に務め、受診時には看護師が付き添い、医師との連携を図っている。必要に応じて、家族と相談しながら、他科の受診の通院支援も行なっている。	
20 (53)	<b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期について、契約時に口頭で説明をしている。常時医療が必要になった場合は、かかりつけ医や家族、関係者等で話し合い、他の施設、医療機関への利用変更を支援している。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	<b>プライバシーの確保の徹底</b> 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応が行なわれない様に、研修をしたり、職員間で注意し合い、気をつけている。記録等の個人情報の取扱いは保管場所を定め気をつけている。	
22 (59)	<b>日々のその人らしい暮らし</b> 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	業務日誌やケース記録により、個々の状態の把握に努め、利用者のペースに沿った対応を行なっている。1日の概ねの流れは決まっているが、起床時間、食事時間、利用者のしたいことなど、本人の意向を尊重した上で、支援を行っている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	<b>食事を楽しむことのできる支援</b> 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日の朝食・夕食と日曜日・水曜日の昼食は施設内で調理している。他の曜日の昼食は隣のケアハウスから届いている。食事の準備や片付けを一人ひとりの出来る力が活かされるように細やかに配慮している。職員も同じ食事を一緒に食べながら必要な支援をしている。	
24 (64)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は毎日16時から18時頃まで行なっており、利用者は隔日で一人ずつ、ゆっくり入浴している。希望者には入浴剤を入れる等楽しく入れる配慮をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	地域ボランティア4～5名の協力で「おしゃれの日」や「フラワーアレンジメントの日」を楽しんだり、詩吟、歌、読書、縫い物、パズル等一人ひとりに合わせた楽しみごとにも配慮しながら支援している。	
26 (68)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	週2回、同じ法人のデイサービスセンターに出かけ、レクリエーションやカラオケなどデイサービスの利用者と一緒に楽しんでいる。散歩、買物、ドライブ、通院、美容院等戸外に出かけられるように支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	<b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	具体的な行為についてカンファレンスの中で話し合い、身体拘束の無いケアに取り組んでいる。	
28 (75)	<b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、玄関に鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
29 (78)	<b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書、ヒヤリはっと報告書に記録し、対策を検討し、事故防止に取り組んでいる。歩行不安定な人には職員が目配りをしたり、部屋の配置に工夫をしたりしている。	
30 (79)	<b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルを作成し、施設内研修を実施している。定期的な訓練は実施していない。	・定期的な訓練の実施
31 (81)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	施設内での火災避難訓練を年2回実施している。夜間想定訓練も行っている。災害時には同一敷地内のケアハウスと連携をとる体制になっている。ケアハウスの交流スペースが地域防災避難場所になっているが、地域への協力を得るための働きかけはしていない。	・地域住民へ協力を得るための働きかけ

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
32 (84)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬の情報をケース記録にファイルし、看護師から薬の説明を受けている。薬の変更があった場合は、日誌や連絡帳に記載したり、カンファレンスで看護師が受診後の状況と合わせて報告している。服薬は手渡し服用を確認している。	
33 (86)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、声かけや介助したりして、一人ひとりに応じた口腔ケアの支援をしている。義歯、歯ブラシなどの清掃、保管、消毒についても支援している。	
34 (87)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事の摂取量を日々記録し把握している。水分量は健康状態の必要時に記録し把握している。同一敷地内のケアハウスの栄養士に献立や食材の確認をしてもらい、バランスの良い食事の提供をしている。	
35 (88)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、ペーパータオルの使用、手洗い、うがいの励行など予防を実行している。除菌のための霧化器を使用している。インフルエンザの予防接種を全員が受けている。	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	玄関に長い腰掛けがあり、靴を履くのに便利だったり、置いてある写真ブックを見てくつろげるようになっている。季節の花を飾り落ち着いた雰囲気を出している。絵や写真、手作りのカレンダーを飾るなど工夫している。	
37 (93)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	仏壇、鏡台、タンス、本棚、冷蔵庫等家具や生活用品が持ち込まれ居心地よく過ごせるように工夫されている。家族や孫の写真を飾ったり、職員の援助を受けながら作り上げたパズルの作品を飾ったりしている。	

# 自己評価書

## 【ホームの概要】

事業所名	ヘスティア華城グループホーム
所在地	山口県防府市大字伊佐江1598番地
電話番号	(0835)20-0322
開設年月日	平成15年6月1日

## 【実施ユニットの概要】 (6月1日現在)

ユニットの名称	ヘスティア華城グループホーム			
ユニットの定員	9名			
ユニットの利用者数	9名	男性 0名	女性 9名	
	要介護1	0	要介護4	0
	要介護2	7	要介護5	0
	要介護3	2	要支援2	0
年齢構成	平均 87.3歳	最低 76歳	最高 95歳	

## 【自己評価の実施体制】

実施方法	ミーティングで、管理者より評価の意義や評価項目について説明を行い、自己評価表を全職員に配布する。その後、管理者がまとめ、作成する。
評価確定日	平成21年6月25日

## 【サービスの特徴】

記録物の活用や職員間の連携により、入居者の状況の把握に努め、生活全般の支援を個々に合った方法で行っている。また、職員の年齢も幅広く、認知症の入居者に対し症状に合わせた場面ごとの対応ができています。女性職員により、身だしなみやおしゃれ、また、衛生面にも細やかに配慮し、清潔で心地よい生活を送ることができる。法人内の他施設が、ほど良い距離に位置しており、特養・デイサービス・ケアハウスと用途に応じて活用し、入居者の社会性を維持している。

## 自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b> <b>1. 理念の共有</b>			
1 (1)	<b>地域密着型サービスとしての理念</b> 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2 (2)	<b>理念の共有と日々の取り組み</b> 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		理念のより深い理解と実践に向けてさらに取り組んでいきたい。
3	<b>運営理念の明示</b> 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	<b>運営者や管理者の取り組み</b> 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		研修の機会を確保するなど、職員の知識や意識の向上に努めていきたい。
5	<b>家族や地域への理念の浸透</b> 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		地域への働きかけについて、機会を増やしていきたい。
<b>2. 地域との支えあい</b>			
6	<b>隣近所とのつきあい</b> 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りたりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。		
7 (3)	<b>地域とのつきあい</b> 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		ボランティアの方以外との交流について、関係作りに取り組んでいきたい。
8	<b>事業所の力を活かした地域貢献</b> 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。		積極的な働きかけに欠けているため、努力していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	<b>評価の意義の理解と活用</b> 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	全職員で取り組み、意義の理解や改善に努めている。	改善事項について、日常業務の中で意識した取り組みを行っていききたい。
10 (5)	<b>運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	入居者、ご家族、地域住民の代表者、ボランティア会の代表者、市職員、地域包括の担当者、管理者をメンバーとして、2月に1回開催し、入居者の状況や行事報告を行い、意見交換をしている。	メンバーの充実に努めていききたい。
11 (6)	<b>市町との連携</b> 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	状況報告や相談等を通じて、サービスの質の向上に努めている。	
12	<b>権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	必要背については、認識しているが、現在該当者がいない。	
13	<b>虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	日々の業務の中で、周知徹底に努めている。	研修会への参加や施設内の勉強会で理解に努めていききたい。
4. 理念を実践するための体制			
14	<b>契約に関する説明と納得</b> 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には、契約書・重要事項説明書の説明を行い、質問等へも対応している。	
15	<b>運営に関する利用者意見の反映</b> 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常的に意見や要望を言いやすい雰囲気作りに努めている。	個々の要望に答えたり、また、的確に表現できない方への配慮に努めていききたい。
16 (7)	<b>家族等への報告</b> 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	利用料の支払いについては、ほとんどの方に持参していただいており、その時や面会時に、状況を報告したり要望や意見を求めている。職員の異動等についても、その際に行っている。	ご家族からの要望や意見を引き出せる努力をさらに行っていききたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<b>情報開示要求への対応</b> 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。		
18 (8)	<b>運営に関する家族等意見の反映</b> 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。		ご家族等が、意見を言いやすい雰囲気作りに努めていきたい。
19	<b>運営に関する職員意見の反映</b> 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。		些細な事でも問題提起し合い、サービス提供のや運営について全職員で取り組んでいきたい。
20 (9)	<b>柔軟な対応に向けた勤務調整</b> 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。		
21 (10)	<b>職員の異動等による影響への配慮</b> 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援			
22 (11)	<b>職員を育てる取り組み</b> 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。		外部研修の機会が十分確保できるように努力していきたい。
23	<b>職員配置への取り組み</b> 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。		
24 (12)	<b>同業者との交流を通じた向上</b> 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		外部研修の機会を十分に確保し、さらに情報交換や意見交換ができる場を提供していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	<b>職員のストレス軽減に向けた取り組み</b> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	法人の忘年会開催、夏季・冬季休暇や希望の休暇が取れるように配慮している。交代制の勤務形態の中で、お互いがカバーし合っている。		スーパーバイザー的人材の確保や、職員の親睦会等の機会を作っていきたい。
26	<b>向上心を持って働き続けるための取り組み</b> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	資格取得に向けての支援や、希望する研修への受講、必要文献の購入に努めている。		外部研修や施設内研修を通じて、個々の向上心が維持できるように、機会の確保に努めていきたい。
27	<b>職員の業務に対する適切な評価</b> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	適切な評価を行い、手当での支給がなされている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	<b>初期に築く本人との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	入居者やご家族との面談を行い、意向にそえるように努めている。		
29	<b>初期に築く家族との信頼関係</b> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	相談時等、本人を外し、傾聴する時間を確保している。		
30	<b>初期対応の見極めと支援</b> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	他のサービスの利用や、他事業所等の情報を提供し、必要な支援について紹介している。		
31 (13)	<b>馴染みながらのサービス利用</b> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	必要に応じて、体験利用をしていただく等の工夫に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32 (14)	<b>本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は、必ず「ありがとう」の感謝の声かけを行い、入居者との関係作りを努めている。日常生活の中で、食事の準備や後片付け、洗濯、掃除等、一緒に行う中で、支えあう関係作りを努めている。		さらに寄り添える関係作りに努め、生活を共にしているという意識を持って接していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	<b>本人を共に支えあう家族との関係</b> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。		ご家族の意向を全職員が共通認識として把握に努めていきたい。
34	<b>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</b> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。		全職員が、状況把握に努め、より良い支援が提供できるように努力していきたい。
35	<b>馴染みの人や場との関係継続の支援</b> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	<b>利用者同士の関係の支援</b> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		入居者同士が支えあえる関係づくりの工夫に努めていきたい。
37	<b>関係を断ち切らない取り組み</b> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38 (15)	<b>思いや意向の把握</b> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		具体的な要望の内容や対応方法について、全職員の共通認識とし入居者の思いに添えるよう努力していきたい。
39	<b>これまでの暮らしの把握</b> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		情報収集の様式の改善を行い、全職員が周知できやすうにしていきたい。
40	<b>暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		記録方法の改善を検討し、より把握しやすいものにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 (16)	<b>チームで作る利用者本位の介護計画</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	面会時に近況報告と合わせて、対応状況を伝え、意見を求めて反映できるように努めている。また、受診時の医師からの意見等をカンファレンスの中で報告し参考にして、生活の質の維持や向上に向けて支援できるように努めている。	入居者やご家族、職員から積極的な意見が提示される環境づくりにつとめていきたい。
42 (17)	<b>現状に即した介護計画の見直し</b> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	必要に応じて、話し合いの時間を設け、変化に合った対応をおこなっている。	3ヶ月から6ヶ月の見直しを行ったり、必要に応じて対応を検討行いが、迅速な変更プランの作成を行っていききたい。
43	<b>個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケース記録や、状況に応じて、個別の記録をとり、情報を共有している。	見やすく、わかりやすく、的確な表現で記録が行えるように検討や勉強を行っていききたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 (18)	<b>事業所の多機能性を活かした支援</b> 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	要望に応じて、美容院等の付き添いや送迎、通院の付き添い、ドライブ、買い物、散歩等の支援を行っている。	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	<b>地域資源との協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議の中で情報を提供していただいたり、地域のボランティアの協力を得ている。	各関係機関との関係を図り、地域資源との協働に努めていきたい。
46	<b>事業所の地域への開放</b> 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。	随時、相談や見学について受け入れを行っている。市の認知症啓発の委託を受け、講座の開催を行っている。	
47	<b>他のサービスの活用支援</b> 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	同法人内のデイサービスの利用者と2回/週、交流を持ち、社会性の維持や馴染みの関係維持に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p><b>地域包括支援センターとの協働</b> 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		
49 (19)	<p><b>かかりつけ医の受診支援</b> 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>		
50	<p><b>認知症の専門医等の受診支援</b> 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>		特定の専門医との協力体制を検討していきたい。
51	<p><b>看護職との協働</b> 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>		
52	<p><b>早期退院に向けた医療機関との協働</b> 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>		
53 (20)	<p><b>重度化や終末期に向けた方針の共有</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>		重度化や看取りについての指針が整備できておらず、早期の検討を計画している。
54	<p><b>重度化や終末期に向けたチームでの支援</b> 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>		重度化や看取りについての指針を早期に整備していきたい。
55	<p><b>住み替え時の協働によるダメージの防止</b> 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 (21)	<p><b>プライバシーの確保の徹底</b></p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。</p>	<p>個人情報については、法人で取り決めがなされており、記録等については、保管場所が定めてある。また、言葉かけ等の対応については、施設内で研修の機会を設けたり、職員間でも気をつけあっている。</p>	<p>時に、配慮に欠ける場面もあるため、言葉遣いや言葉かけの工夫について、研修を繰り返し行っていきたい。</p>
57	<p><b>利用者の希望の表出や自己決定の支援</b></p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者の状況に合わせて、カンファレンスで検討しながら、対応を考慮した支援を行っている。</p>	<p>入居者が納得できるような働きかけの工夫について、協議や工夫を重ねていきたい。</p>
58	<p><b>“できる力”を大切にされた家事への支援</b></p> <p>家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>	<p>生活の場面毎に、できることをできる範囲で行ってもらい、できるような環境づくりにも配慮している。また、必ず感謝の言葉をかけ、やる気の維持に努めている。</p>	<p>レベルに合わせた環境づくりの工夫を行っていきたい。</p>
59 (22)	<p><b>日々のその人らしい暮らし</b></p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>業務日誌やケース記録により、個々の状態の把握に努め、入居者のペースに沿った対応に努めている。起床時間や食事時間、入居者のしたいことなど、本人の意向を尊重した上で、働きかけを行っている。</p>	<p>カンファレンスの中で、職員の共通認識を持ち対応できるように、入居者の意向の把握に努めたい。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p><b>身だしなみやおしゃれの支援</b></p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>希望に応じて、美容院に行ったり、化粧品や衣類の購入をおこなっている。1回/月 お化粧の日を設けて、おしゃれを楽しめる機会を確保している。</p>	
61 (23)	<p><b>食事を楽しむことのできる支援</b></p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>毎日の朝食・夕食と、日曜日・水曜日の昼食は、施設内で調理しており、食事の準備や片付けを一緒に行っている。職員も同じ食事を一緒に摂りながら、必要応じた支援を行っている。</p>	<p>食べたいものの希望を聞きだせるように、楽しめる食事の提供に努めていきたい。</p>
62	<p><b>本人の嗜好の支援</b></p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>	<p>嗜好品については、ご家族と相談しながら支援している。</p>	
63	<p><b>気持ちのよい排泄の支援</b></p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>	<p>個々の状況に応じて、チェック表を作成したり、記録によって、排泄のパターンを把握する等行っている。</p>	<p>自尊心や羞恥心に配慮した対応ができるように、さらに努めていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
64 (24)	<b>入浴を楽しむことができる支援</b> 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は、毎日行っており、隔日で一人ずつ入れるようになっている。希望者には、入浴剤を入れる等して、楽しみながら、ゆっくりは入れるようになっている。		
65	<b>安眠休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	それぞれの身体状況を把握し、状況に応じて休息を促したり、昼ね等の働きかけを行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66 (25)	<b>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	地域ボランティアの方といっしょに、おしゃれの日やアレンジフラワーの日を楽しんだり、詩吟・歌・読書・縫い物等、それぞれが得意であったり、楽しめる場面作りに努めている。		本人にとっての楽しみや気晴らしを再考察しながら、張りのある生活の維持に努めていきたい。
67	<b>お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	個人で現金を持っている方が、2名ある。必要に応じて支援している。		
68 (26)	<b>日常的な外出支援</b> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	2回/週 同法人のデイサービスの利用者との交流のため出かけている。また、散歩・買い物・通院・散髪等、個別の支援を行っている。		
69	<b>普段行けない場所への外出支援</b> 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	季節や必要に応じてご家族と外出されることもある。花見等の機会もある。		個別の希望を聞きだせるように努めていきたい。
70	<b>電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	自由に電話がかけられる。必要に応じて支援している。		
71	<b>家族や馴染みの人の訪問支援</b> 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	玄関は開放しており、面会時間も特に定めてはいないため、いつでも出入りできるようになっている。居室でゆっくりと過ごしてもらえるように、お茶やお茶菓子を出して、また、話題の提供にも努めている。		
72	<b>家族の付き添いへの支援</b> 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	宿泊を希望された方は、今までは無いが、可能である。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
73 <b>家族が参加しやすい行事の実践</b> 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	積極的な働きかけは行っていない。家族環境も個々に違いがあるため、参加が困難なケースもある。		ご家族への働きかけは、行っていきたい。
(4)安心と安全を支える支援			
74 (27) <b>身体拘束をしないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	具体的な行為について、カンファレンスの中で検討し合い、身体拘束の無い支援に取り組んでいる。		今年度は、まだ施設内研修の機会が無いため、後半の研修課題としていきたい。
75 (28) <b>鍵をかけないケアの実践</b> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中、玄関は開放している。また、居室の出入り口の施錠も行っていない。		
76 <b>利用者の安全確認</b> 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	見守りが行えるように職員は分散して、様子の把握に努めている。		
77 <b>注意の必要な物品の保管・管理</b> 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物や針等を使用するときは、見守りと確認を行っている。		
78 (29) <b>事故防止のための取り組み</b> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書、ヒヤリ・ハット報告書に記録し、想定される事故や事故防止に向けて取り組んでいる。		再発防止に向けての共通認識を持った対応を全職員ができるように、改善していきたい。
79 (30) <b>急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	マニュアルの作成と施設内研修を実施している。また、受診時に、かかりつけ医より、身体的な状況の説明を受け、今後の急変や状態の変化について把握につとめている。		定期的な訓練の実施や、救急講習の受講を行っていきたい。
80 <b>再発防止への取り組み</b> 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはっと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故報告書、ヒヤリ・ハット報告書を作成し、職員間で共有して改善策を検討して、再発防止に努めている。		再発防止について、改善策を検討し対応しているが、転倒等続くこともあるため、全職員が共通認識を持ち、対応できるよう取り組んでいきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81 (31)	<b>災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	施設内での避難訓練を実施している。災害時等には、同一敷地内のケアハウスと連携を図る体制をとっている。また、ケアハウスの地域交流スペースが災害時の避難場所になっている。		近隣との連携が図られる体制作りを行っていききたい。
82	<b>リスク対応に関する家族等との話し合い</b> 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	面会時や状況に応じて、ご家族に対し想定されるリスクについて、説明を行ったり、受診時のかかりつけ医からの意見や指示を報告して、対応策を検討している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	<b>体調変化の早期発見と対応</b> 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	非常勤ではあるが、看護師を2名配置しており、入居者の体調管理を行っている。また、1日の状態を申し送りや記録により把握し、必要に応じて、かかりつけ医に連絡をとり指示を受けたり受診したり対応を行っている。		異常や変化の早期発見ができるように、観察ポイントの習得等の研修に参加したり、施設内研修の機会を確保していきたい。
84 (32)	<b>服薬支援</b> 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	薬事情報をケース記録にファイルしたり、看護師から説明を受け、把握に努めている。薬の変更があった場合は、日誌や連絡帳に記載したり、カンファレンスの中で、看護師より、受診後の状況と合わせて報告を行っている。薬は、その都度手渡しし、服薬を確認している。		薬の内容や効果、副作用について、研修する機会をつくっていききたい。
85	<b>便秘の予防と対応</b> 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	水分補給の時間を定期的に設けたり、それ以外にも積極的に働きかけを行っている。乳酸飲料やヨーグルトやスポーツドリンクを取り入れたり、適度な運動や体操へも取り組んでいる。必要に応じて、個別にチェック表を作成し、排便の確認を行い、かかりつけ医に相談し服薬でのコントロールも行っている。		
86 (33)	<b>口腔内の清潔保持</b> 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、声かけや必要な支援を行って、口腔ケアの実施に努めていえる。また、1回/週 歯ブラシや歯ブラシ、専用コップを消毒している。		歯や義歯等の清潔だけでなく、口腔内の変化に早期に気づくことができるように、状態の把握に努めていききたい。
87 (34)	<b>栄養摂取や水分確保の支援</b> 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の食事や水分の摂取量を把握し、必要な支援を行っている。食事に偏りがある方や水分を拒否する方等には、その方に合った対応をおこなっている。また、同一敷地内のケアハウスの栄養士にメニューや食材の確認をしてもらい、バランスの良い食事が提供できるように、指導を仰いでいる。		
88 (35)	<b>感染症予防</b> 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、ペーパータオルを使用したり、手洗いや専用液を使用してのうがいの励行に努めている。また、除菌のための霧化器を導入している。インフルエンザの予防接種は、入居者、職員共に実施している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
89 <b>食材の管理</b> 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	1回 / 日 調理器具や布巾等の殺菌・消毒を行っている。こまめな食材の購入に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	<b>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</b> 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関には、スロープや手すり、ベンチを設置している。	
91 (36)	<b>居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	各居室や施設内に季節の花を飾ったり、手作りカレンダーを設置したり、屋外の花や植木、木にみのった実を収穫したり、季節を感じられるような工夫を行っている。	
92	<b>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室以外にも、ベンチやソファを設置している。	
93 (37)	<b>居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家具や生活用品は、全て持ち込みとなっており、仏壇・鏡台・冷蔵庫・タンス等使いやすい物や親しみのあるものを使いやすく配置してある。また、居室内にご家族や孫ひ孫の写真を飾っている方もある。	
94	<b>換気・空調の配慮</b> 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	換気、温度調節、衣類の入れ替え等、随時行っている。	
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	<b>身体機能を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。	施設内は、全てバリアフリーになっている。玄関、廊下、トイレ、浴室には手すりを設置している。また、居室とトイレと浴室は色分けしてある。	
96	<b>わかる力を活かした環境づくり</b> 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	各居室の入り口には、名前を掲示している。個々の行動パターンを把握して、タイミングや個々のペースに添った支援に努めている。	
97	<b>建物の外周や空間の活用</b> 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	縁側が設けてあり、時候によっては、日向ぼっこをしたり、レクリエーションの場としている。	

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	ほぼ全ての利用者の 利用者の1 / 3 くらいの	利用者の2 / 3 くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	毎日ある たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	ほぼ全ての家族等と 家族の1 / 3 くらいと	家族の2 / 3 くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	ほぼ毎日のように たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	ほぼ全ての職員が 職員の1 / 3 くらいが	職員の2 / 3 くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての利用者が 利用者の1 / 3 くらいが	利用者の2 / 3 くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	ほぼ全ての家族等が 家族等の1 / 3 くらいが	家族等の2 / 3 くらいが ほとんどできていない